

わたしたちは「自然と環境の保全は足元から！」をモットーとしています。



おいしーOECー ニュースレター



うりずんの季節をむかえ、皆様、いかがお過ごしでしょうか。おきなわ環境クラブは、この四月で活動十年目を迎えました。これまで皆様の暖かいご支援をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

OECは、これまでの活動を踏まえ、新たなスタートを切るうとしていきます。

まず会員の皆さまと改めて緊密な繋がりを持ち、自主活動として地域の皆様にも、楽しい機会(プログラム)を増やしていきたいと考えております。またホームページをリニューアルしました。OECの活動内容は、随時、報告できるようブログ形式にしました。お時間あるときにのぞいて見て下さい。

今年度も、会員の皆様をはじめ、多くの関係者の方々のご理解とお力添えで、活動を展開してまいりますので、どうぞ宜しくお願いします。



「いかなる疑問であれ答えは自然の中にある」

これは、私の座右の銘でもある。題名もどこの国の話だったかも忘れてしまった映画の中で、両親をなくした少年と老人の会話であった。小鳥がさえずり、差し込む光が神秘的に見える森の中、老人は少年が母親を思い出し寂しがらないように気遣う。虫を捕らえて羽をばたつかせて見せたり、千切った木の葉から延びた糸のようなものを見せては、その役目についてやさしく話しかける。老人は博物学者のようであった。好奇心旺盛な少年は、目を輝かせ聞き返している。そして、老人が少年に歩きながら何気なく語りかけたことが冒頭の言葉である。

物覚えが悪くなったことは否めないが、不思議とこの言葉だけは記憶に残り、また深く胸に刻まれてしまった。そ〜だ! どのような自然現象にしろ、あるいはどのようなことも答えが無いということはないはずだ。答えが無い、あるいは説明できないという事は調べ方が分から

ないかあるいはよく調べない、注意して見ないか、考えないからなのではないだろうか。

観察、あるいは研究においては、すぐ解決できることと、十年も二十年もかかったり、あるいは数世代に引き継がれ、やっと答えが出るものもある。すべて答えは自然の中にかくれているのであって、それを人はいかに、あるいはどのような手段でもって発見できるかである。自然とは、ネイチャーのことであり、何をしなくても何となく分かるというものではない。「いかなる疑問であれ答えは自然の中にある」の言葉は、私のものをみる姿勢をいつも正してくれる。

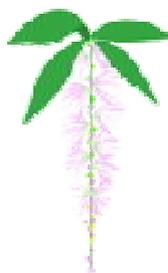
おきなわ環境クラブ
会長 大城 逸朗



OECからお知らせ

おきなわ環境クラブでは、これまで国場川河口域において「キーフジ作戦」をおこない、河口域周辺にサガリバナを植樹してきました。オーナー制度で始めたこの植樹・管理活動は、年数を経るにしたがい、管理されている個体とそうでない個体に差が出てきています。中には立派に花をつけているものもあれば、枯死している個体もあり様々です。今年、OECでは、定期的な追肥・下草刈作業をおこない、現在、植樹されているサガリバナを元気にしたいと思えます。

【ご案内】
国場川河口域「サガリバナ」手入れ
【日程】
一ヶ月に一回、第二土曜日
二〇〇九年
・第二回 五月九日(土)
・第三回 七月十一日(土)
・第四回 九月十二日(土)
・第五回 十一月十四日(土)
【時間】午前10時〜12時
お手入れ用具はOECで用意致します。皆様の参加をお待ちしております。



川満エコガイドデビュー！



平成二〇年十二月二八日、川満エコガイドがデビューしました。当日はお天気も良く、年末年始を宮古島で過ごす観光客の参加もあり、にぎやかな観覧会となりました。

前半・後半に分けて二名のガイドが、川満マングローブの解説をしました。気温が高く、この時期ではないとも見られるとは限らないベニシオマネキ・クマドリオオギガニ・フタバカクガニ・ミナミトビハゼなどが姿を現すという好条件で、参加者の方も楽しそくに観覧していました。

担当した二名のガイドは、スケッチブックに描いた大きなイラストや木工細工で作ったマングローブの動物の模型を使って解説し、参加者の質問にも的確に答えていました。最後に参加者の方から、「とてもわかりやすかった」、「参加してよかった」、「ごみのポイ捨てをなくしたい」という感想をいただきました。

今後、「エコアイランド宣言」「環境モデル都市」により、ますます注目される宮古島においてエコガイドとしての活躍の場が増える予感がします。

第十四回 国場川水あしび

リバーコーミングで芸術に挑戦

平成二〇年十二月十三日、漫湖水鳥湿地センターを拠点に第十四回「国場川水あしび」が開催されました。

OECは、水辺の植物の鉢植えと、パネル展示、環境教育教材をブース内で紹介しました。

また、今回の水あしびの目玉である「体験型ネイチャーゲーム」では、OECを含む、計三つの団体による体験コーナーが実施されました。

OECは、「何をつくるのかな？」リバーコーミングで芸術に挑戦！と題し、参加者と一緒に、国場川河川左岸側にて、自由に拾った漂着物を使って、楽しい工作をしました。最後はガイドから、今日使った種子と水辺の植物について説明があり、参加者は熱心に聞き入っていました。当日は、お天気にも恵まれて、「国場川」に親しめた一日となりました。



第二十回 沖縄県地域環境セミナー

石になった生き物たち

化石とはどういうものか皆さんご存知ですか。「一万年以上前の生き物たちが地層中で石化したもの」と化石についての定義が説明されセミナーが始まりました。沖縄では、宮古島・石垣島も含めて百ヶ所以上の化石の産地があるそうです。また、杉の化石が佐敷から見つかっているといい、杉は南限が屋久島と寒い地域の植物なので、沖縄に杉があったとすると、寒い部分、つまり標高千三百メートル級の山が沖縄にあったのではないかと、現在の沖縄からは考えられない壮大なスケールの話になりました。

また、伊江島タッチユールと称されている伊江島の山について、タッチユールの上側と下側の地質を調べてみると、実は上側のほうに古い年代の地層がきていると話しました。何気なく見ていたタッチユールが、島よりも七千万年も前のものであるということに、感嘆の声があがっていました。

不思議に思える話でしたが科学的にも裏付けが取れるものばかりで、参加者たちは大いに関心を深めたようでした。



JICA 地域別研修

持続可能な観光開発（カリコム護国）

カリブ海の地域で観光開発の企画や観光振興に従事する行政職員等を対象に、自国の観光資源を管理しながら地域経済を発展させることのできる、実施可能な行動計画を作成する人材を育成するための研修を企画・実施しました。

今回は三年間のコースの二年目で、ベリーズ、ハイチ共和国、ジャマイカ、セントルシア、セントビンセントおよびグレナディーン諸島の五カ国から研修員を迎えました。

沖縄県内各地において講義や視察、実習をおこない、観光産業に関わっておられる方のご協力により、有意義な研修となりました。講師との意見交換では、研修員から講師に対して自国の知見を提供する場面も見られ、研修を受入れる側にとっても新たな視点を獲得することができたようです。

今後も研修員からいただいた意見を参考にして研修の改善点を探り、国々が抱える観光の課題やニーズを整理することで、より効果的な研修となるようにしていきたいと思えます。



最近の活動一覧 (2008年12月～2009年3月)

助成事業

地球環境基金助成 (独立行政法人 環境再生保全機構)

- 12/6 「環境NGOと市民の集い」 出席 場所:熊本市国際交流会館
- 12/24 糸満市報得川環境対策指導員講座 閉講式 場所:糸満市役所 人数:20名
- 12/28 川満マングローブ観察会 講師:春川京子、金子導夫(川満エコガイド) 場所:宮古島市川満 人数:30名
- 12/29 サンゴ礁海岸の生態系調査とプログラム作成のためのフィールド調査 場所:沖縄本島大度海岸
- 1/15 大里分室ゴバンノアシを沖縄県総合教育センターへ移植
- 1/24 第8回 宮古島「添道サガリバナワークショップ」 場所:宮古島市添道 人数:9名
- 3/14 サガリバナのお手入れ作業ワークショップ 場所:国場川河口域北岸河川敷(ジョギングロード沿) 人数:8名
- 3/29 第9回 宮古島「添道サガリバナワークショップ」 場所:宮古島市添道 人数:12名
- 3/30 おきなわ水辺の環境教育の手引き 作成

受託事業

沖縄県地域環境センター・セミナー (沖縄県文化環境部環境政策課)

- 1/22 第20回「石になった生き物たち」 講師:大城逸朗(OEC会長) 場所:沖縄県立博物館・美術館 美術館講座室 人数:17名
- 3/24 第21回「漫湖で野鳥を探そう!」 講師:山城正邦、新城公次(沖縄野鳥の会) 場所:那覇市漫湖 人数:16名
- 3/28 第22回「お化けサンゴ観察」 講師:大城逸朗(OEC会長) 場所:中城村当間海岸 人数:22名

沖縄県地域環境センター・出前講座 (沖縄県文化環境部環境政策課)

- 1/22 第32回「漫湖の干潟」 講師:藤井晴彦(NPO法人エコ・ビジョン沖縄) 場所:那覇市立松島小学校 人数:120名
- 2/24 第33回「安謝川の水質調査」 講師:保村亨(沖縄エコツアーガイド) 場所:安謝川(銘苅市苅団地裏手側) 人数:40名
- 3/28 第34回「宮古のマングローブの話・サガリバナの育て方教室」 場所:宮古島市中央公民館 人数:12名

沖縄県地域環境センター・野外観察会 (沖縄県文化環境部環境政策課)

- 1/31 第16回「首里周辺の湧水めぐり」 講師:保村亨(沖縄エコツアーガイド) 場所:首里儀保周辺 人数:17名
- 3/1 第17回「末吉公園を探検しよう!」 講師:藤井晴彦(NPO法人エコ・ビジョン沖縄) 場所:那覇市末吉公園 人数:16名
- 3/29 第18回「浦添歴史散策」 講師:盛島董純(NPO法人うらおそい歴史ガイド友の会) 場所:安波茶橋、当山の石畳 人数:17名

独立行政法人国際協力機構(JICA) 沖縄国際センター

- 1/12-2/20 地域別研修 第2回持続可能な観光開発(カリコム諸国) 場所:沖縄県内各地 人数:9名
- 1/19,20 NPO資金調達講座に参加 場所:JICA沖縄国際センター
- 2/27 沖縄発!国際協力セミナーに参加 場所:JICA沖縄国際センター
- 3/1-8 持続可能な観光開発(ミクロネシア3国)に係るフォローアップ協力 場所:パラオ共和国

自主事業、各協議会・検討委員会の参加等

- 12/13 第14回 国場川「水あしび」OECブース出展、体験型ネイチャーゲーム実施 場所:漫湖水鳥・湿地センター、国場川河口域左岸側
- 12/22-23 やんばる環境フォーラムに出席 場所:国頭村森林公園
- 1/23 かいぎん環境貢献基金助成金授与式に出席 採択タイトル:宮古島市川満集落の地域資源を生かした環境教育拠点づくり活動
- 2/2,27 沖縄県持続可能な観光地づくり支援事業 第5回・6回ワーキンググループ会議に出席 場所:那覇市
- 2/6 赤土流域協議会ネットワーク会議に参加 場所:マリオット3階
- 3/16 宮古島市環境モデル都市実践協議会に出席
- 3/31 漫湖の保全事業に関するワークショップ(第4回)に参加



おきなわ水辺の環境教育の手引きを作成しました。



OECでは、平成18～20年度の3年間、地球環境基金助成活動で「沖縄における島嶼生態系環境教育システムの構築・普及事業」を実施してきました。この事業では、沖縄の島嶼生態系について、那覇市国場川河口域や糸満市報得川流域、宮古島全域をはじめ県内各地の水辺の環境をフィールドに、効果的な環境啓発プログラムを開発し、それを普及・定着できる環境システムを模索・構築してきました。今回の手引き書では、これまで私たちが実践してきた経験と活動を一冊にまとめています。詳しく知りたい方は、事務局までお問い合わせ下さい。



エコツアーガイド VOICE

もともと、ボランティアでやんばるの自然を案内していたが、もつと沖縄のことを深く勉強したい、知識を向上させたいと思っていたところ、おきなわ環境クラブが運営する「エコツアーガイド養成講座」の募集をきっかけに、本職の仕事を辞めて講座に申し込んだ。

最近、山深い場所の大木を案内した時のこと。その大木にたどり着くまで、約1キロのそれは大変な山道だが、車いすを使う足が不自由な方をガイドした。(もちろん、不自由なのでなんとおぶつての案内)。

その山中がどれだけ大変だったかではない。普段、車いすを使う方が大木と出会ったあまりにもの感動とエネルギーとなんとも不思議なパワーで、帰りは「自分で歩きたい」と言い出した。けして簡単に歩けるようになったとかいう事ではなく、「歩きたい」という、その懸命な気持の衝動にかられたこと、生きる意欲がわき出たこと。その気持ちと言葉に心から感動を受け、ガイドをしていてこれほど幸せなことはないと、心底思う場面だった。



沖縄エコツアーガイド三期生
比嘉理

水辺の植物(漂着種子)の紹介

和名:ゴバンノアシ

学名: *Barringtonia asiatica*

科名: サガリバナ科

性状: 常緑高木

原産地: マダガスカル、太平洋諸島

インド洋、太平洋の熱帯地域の海岸やマングローブ域に生育する。日本の自生地は石垣島が北限。環境省レッドデータブック絶滅危惧ⅡA類(CR)に近く近い将来に絶滅する危険性が極めて高い種

果実は種子を一つ含み、海水に浮いて遠くへ散布される。碁盤の脚に似ているのでこの名がついた。毒性があり「毒流し漁」に用いられている。

種子の漂流は、十月から翌三月頃の北西季節風の時期に多い。特に十月、十一月頃に海岸に漂着するものは、外果皮も破れず、暗緑色を呈した完形のものが見られる。



平成二十一年度 主な活動

助成事業

- ・かいぎん環境貢献基金活動
- ・宮古島市川満集落の地域資源を活かした環境教育拠点づくり活動
- その他、申請中

受託事業

- ・沖縄県地域環境センター管理・運営
- ・環境情報の収集と提供
- ・こどもエコクラブ事業の補助
- ・環境啓発活動・体験学習会の開催
- ・環境保全団体の活動支援
- ・ネットワーク作りコーディネート
- ・沖縄県環境科学センター
- ・環境教育教材作成協力
- ・JICA 沖縄 課題別研修
- ・熱帯・亜熱帯地域エコリズム企画・運営
- ・持続可能な観光開発(大洋州地域)
- その他

自主事業

- 6月 国場集落 夜の「サガリバナ」観賞会
- 7月 県庁構内「サガリバナ」ライトアップ
- その他、計画中。随時、ホームページでご案内します。



自然と環境の保全は足元から！

おきなわ環境クラブ(OEC)は、水辺環境の環境保全活動をきっかけに、地域の自然保護や環境保全の気づきが広がることを目的とした、子どもと大人のNPO/NGO団体です。

沖縄本島南部と宮古島を主なフィールドに、水辺植生や希少種保護・回復の実践、環境教育プログラムやエコツアープログラムの提供、教材開発、環境情報の提供、エコツアーガイド養成やJICA研修の人材育成など、地域や学校・企業・行政機関と一緒に事業活動を展開しています。

特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ <http://www.npo-oec.com/>

那覇市国場事務所
〒902-0075 沖縄県那覇市国場 370-107
TEL:098-833-9493 FAX:098-833-9473
e-mail :kokuba@npo-oec.com

宮古支部久貝事務所
〒906-0015 沖縄県宮古島市平良字久貝 1059-203
TEL&FAX: 0980-73-5307
e-mail :oec-m1@miyako-ma.jp